

11 拠点とゾーンの整備方針

～皆がつどい活動する地域の拠点をつくるために～

1. 拠点とゾーンに関する主な取り組み

部門別の方針(本編 119～124 ページ)に掲げる具体的な方針についての主な動向と取り組みは次のとおりです。

方針

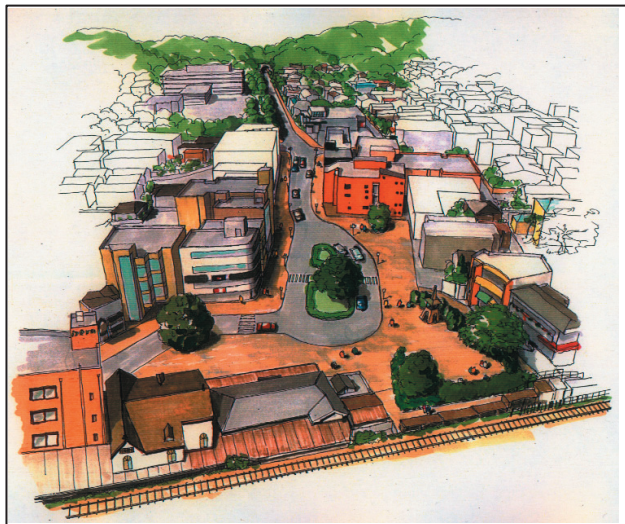
1) 鎌倉駅周辺地区

拠点全体の構想を策定し、西口周辺地区の事業化に向けての準備を進めている

- 古都中心市街地まちづくり構想を策定し(H.12.8)、鎌倉駅西口周辺まちづくり基本計画を策定しました(H.14.7)。これに基づき鎌倉駅西口周辺地区の事業化を進める予定です。
- 鎌倉駅構内にエスカレーターを設置しました(H11.3)。
- 鎌倉駅東口駅前の交通環境整備を行いました(H12.3)。
- 市役所前交差点改良のための用地取得を行いました(H16.6)。

図 鎌倉駅西口周辺の整備イメージ

(資料: 鎌倉駅西口周辺まちづくり基本計画)



方針

2) 大船駅周辺地区

各地区で個別の計画、事業が進んでいる中で全体計画の見直しも予定している

- 大船駅周辺地区都市づくり基本計画(案)の改定を行いました。(H15.1)
- 大船駅東口第1地区では地区計画を策定しました。(H14.8)
- 大船駅東口第一種市街地再開発事業(第2地区)の新基本構想を確定しました(H15.8)。
- 大船駅西口では利便性の向上と混雑解消を図るため、新乗降口を整備(H11.2)し、エスカレーター1基(H12.9)を整備しました。また、横浜・鎌倉両市にわたる西口整備計画の見直しを進めています。
- 大東橋周辺地区ではまちづくり基本構想(案)を策定しました(H10.3)。また、大船駅北口開設(H18年度予定)を受け、市境周辺での都市整備について横浜市等と調整を図っています。
- 鎌倉芸術館周辺地区では、地区計画(H13.11)の策定及び景観形成地区の指定(H14.4)を行いました。また、まちづくり基本方針を策定(H10.3)し、鎌倉女子大学大船キャンパスまちづくり基本方針を策定しました。これに基づき松竹大船撮影所跡地での計画的な土地利用の誘導を図りました。
- 砂押川沿いにプロムナードを整備しました(H10～H14、整備済延長=390m)。
- 大船駅南部地区については、まちづくり基本方針を策定(H10.3)しました。
- 大船都市軸については、大船停車場谷戸前線の整備(500m)を行い、延伸整備を予定しています。

図 大船駅東口周辺の整備イメージ

(資料: 大船駅東口第一種市街地再開発事業(第2地区)新基本構想)



方針 3) 深沢地域国鉄跡地周辺地区

行政計画に位置づけるとともに用地取得を行っている

- 市民参加による深沢まちづくり協議会を設置し、「深沢地域の新しいまちづくり基本計画(協議会案)」を策定し(H16.5)、これを基に行政計画に位置づけました(H16.9)。
- 事業用地全体の75%に当たる6.1haを取得するとともに、その用地の暫定利用を行っています。

方針 4) 腰越

腰越行政センターを整備し、腰越漁港の改修に向けた検討に取り組んでいる

- 支所、学習センター、図書館機能を持つ腰越行政センターを整備しました(H11.12)。
- 腰越漁港改修については、基本計画を策定(H13.8)し、今後も市民参画による整備に向けた検討を予定しています。

方針 5) 海岸ゾーン

- 鎌倉海浜ベルト総合整備構想を策定しました(H11.3)。

方針 6) 鎌倉シンボルゾーン

- 建築物の高さ15m以下の指導を行ってきましたが、今後は眺望景観の誘導も行う予定です。
- 段葛が歴史的風土保存区域に指定されました(H12.3)。

方針 7) 大船・深沢ゾーン

- 大規模な工場の撤退や縮小による土地利用の転換は、本市の産業構造に変化を与えるほか、人口や交通量の一部地域への集中は、都市基盤整備の問題も発生することから、産業のあり方や土地利用の規制誘導策等を検討しています。

2. 重点的に取り組む内容**重点****1) 鎌倉駅周辺地区**

まちづくりの構想や基本計画を踏まえて、本市の顔としての整備が必要です。

(1) 鎌倉駅周辺地区の再整備

- 都市再生整備計画に基づき、だれもが安全に安心して歩ける快適な歩行空間の改善等を図り、鎌倉の玄関口にふさわしい質の高い鎌倉駅周辺地区の再整備を行います。
- 具体的には市役所通り・小町通り等主要な通りの無電柱化事業や改良事業、駅周辺のバリアフリー化事業等の各種整備事業を行います。

重点**2) 大船駅周辺地区**

松竹大船撮影所跡地への鎌倉女子大学の進出や大船駅北口の開設予定など、大船駅周辺において大きな状況変化があり、都市拠点にふさわしい環境整備を推進することが重要です。

(1) 「市民・企業・大学・行政」協働のまちづくり

- 鎌倉女子大学大船キャンパスの開校効果を活かし、地域企業や商業者、市民が連携した「市民・企業・大学・行政」協働のまちづくりを推進します。

(2) 大船駅東口第一種市街地再開発事業(第2地区)の推進

- 大船駅東口第一種市街地再開発事業(第2地区)の新基本構想に基づき、今後、都市計画の変更を行い、事業を進めていきます。

(3) 大船駅西口整備の推進

- 歩行者・自動車分離による安全性と利便性の確保、駅前交通渋滞の解消などを実現するため、大船駅西口駅前整備協議会から提案された短期的方策のうち実現可能なものから取り組むとともに、大船駅西口整備の推進を図ります。
- モノレール大船・ドリームランド線廃止等の状況変化に合わせ、鎌倉・横浜両市で大船駅西口整備事業計画の見直しを行います。

(4) 大東橋周辺の都市整備の推進

- 大船駅北口開設 (H18 年度) が予定される中、横浜市側の都市整備とも調整を図りながら、大東橋周辺を中心とした駅前空間の整備を図ります。

(5) にぎわいのある商店街の創造

- 回遊性のあるヒューマンスケール※で親しみやすい独自の環境整備を支援していきます。

※程良い人間的な尺度。人間の感覚や行動に適合した、適切な空間の規模やものの大きさのこと。

重点

3) 深沢地域国鉄跡地周辺地区

まちづくりの基本方向である「深沢地域の新しいまちづくり基本計画」を基に、今後は、事業化に向けた取り組みを推進することが重要です。

(1) 総合複合拠点の整備

- 整備に当たっては、東日本旅客鉄道(株)をはじめ関係機関等と調整をしながら整備計画の策定を進めていきます。また、新たな拠点の形成を図るために、市有地や JR 鎌倉総合車両センター等を中心とした「面整備ゾーン」に次の機能の導入について検討します。

- 公園・広場
- 総合情報センター的機能
- 保健・医療・福祉関連機能・スポーツ関連機能
- 交通結節機能
- 都市型住宅
- 都市型産業・研究・研修機能
- 商業・業務機能
- 都市・生活サービス機能
- 文化・教育機能

重点

4) 腰越

腰越漁港整備基本計画の策定や行政センターの整備、広町の保全など大きな状況変化があり、これを契機として拠点性を高めることが重要です。

(1) 漁港を核とした地域づくりの推進

- 腰越地域の核となるよう、腰越漁港整備基本計画に基づき、非常時等の海上輸送拠点として、また漁業者だけでなく広く市民や観光客が利用できる施設として整備します。

重点

5) 海岸ゾーン

鎌倉の自然資源である海浜を活かしたまちづくりが重要です。

(1) 海を持つ古都としての特徴の強調

- 鎌倉海浜ベルト総合整備構想に基づいて、海浜の歴史的遺産や自然資源を保全・活用しながら、海と緑と歴史的遺産が一体となった鎌倉らしい海浜環境づくりを進めます。

重点

6) 鎌倉シンボルゾーン

古都鎌倉のシンボリックな都市空間としての整備が必要です。

(1) 若宮大路沿道の景観形成

- 市のシンボル道路として、歴史や文化を感じさせ、落ちつきのある若宮大路沿道のまち並みの整備を目指します。